



埼玉県立図書館創立100周年に寄せて

埼玉県知事 **大野元裕**



埼玉県立図書館は、大正11年(1922年)に「県教育会立埼玉図書館」が設置されて以来、このたび100周年の節目を迎えることができました。

大正11年は、埼玉県で初めて川越に市制が施行された年でもあり、翌大正12年には渋沢栄一翁ゆかりの秩父セメントが創業されています。埼玉県にとっても大きな飛躍の時期に誕生した埼玉県立図書館は、知識や情報の拠点として、社会とともに成長してまいりました。

この間、埼玉県立図書館は、市町村立図書館への支援という普遍的な役割を担いつつ、時代の変化に合わせ、ビジネス支援や健康・医療に関する情報の提供といった新しいサービスを導入し、県民のニーズに応じてきました。

今日、知識や情報の重要性は、かつてないほど高まっています。県民一人一人が様々な知識や情報入手・分析・加工し、自ら課題解決に当たる社会を実現することは、少子高齢化の中、埼玉県が成長し続ける鍵ともなります。

知識や情報を求める県民のニーズを細やかにくみ取り、的確かつ迅速に提供していくことが、これからの埼玉県立図書館にとって、ますます重要となるでしょう。

近代インドの図書館学者ランガナタンが唱えた「図書館学の五法則」の第五法則は、このような言葉で締めくくられています。

「図書館は成長する有機体である。」

埼玉県立図書館は誕生から100年を経て、なお成長し続ける大樹のように、これからも多くの県民に知識や情報を届けていけるよう進化・発展を続けることが期待されます。

結びに、これまで県民の皆様から埼玉県立図書館に賜りました多くの御支援・御協力に心より感謝を申し上げ、創立100周年に寄せる御挨拶といたします。



埼玉県立図書館創立100周年にあたって

埼玉県教育委員会教育長 高田直芳



埼玉県立図書館は、大正11年（1922年）に「県教育会立埼玉図書館」として開設されたことに始まります。2年後の大正13年には文部省の認可を受け「埼玉県立埼玉図書館」となりました。

昭和35年には、後に「埼玉県立浦和図書館」となる地上3階地下1階の施設が完成しました。壁面書架を巡る特徴的な回廊などの姿は、吉永小百合さんが司書を演じた映画「北のカナリアたち」で観ることができます。

続いて、熊谷図書館、川越図書館、久喜図書館が開館し、浦和図書館と併せて4館体制となりました。市町村立図書館の整備がまだまだ進んでいなかった時代、県の東西南北に設置された県立図書館には、それを補う役割が求められ、期待に応えてきました。

その後、市町村立図書館の整備が大きく進みました。県立図書館が各地域の住民に直接的なサービスを提供する比重は徐々に小さくなり、川越図書館を廃止した後、各館がサービスを分担する体制に移行しました。さらに、県民の課題解決支援を重要な柱に加え、浦和図書館の廃止を経て、現在の2館体制に至っています。

情報・通信技術の急速な発展や生産年齢人口の減少など、現代社会を取り巻く環境は、大きく変化しており、さらに新型コロナウイルス感染症の世界的流行によって、人々の生活も大きな影響を受けています。

このような中、県立図書館にとっても県民の新たな課題へ対応していくことが不可欠です。県教育委員会は、「第3期埼玉県教育振興基本計画」の中で県立図書館における県民のチャレンジ支援の充実と新しい県立図書館の検討・推進を掲げています。人生100年時代を迎え、これからも県立図書館が本県の教育と文化の振興に果たすべき役割は、大きいものと考えます。

次の100年に向け、県民の皆様をはじめ関係各位には、一層の御指導・御鞭撻をお願い申し上げます。



埼玉県立図書館創立100周年を迎えて

埼玉県立熊谷図書館長 加藤 健次

埼玉県立図書館が大正11年に開設して100年が経ちました。

振り返ればこの100年の間に様々な変化がありました。そして、今もその変化の途上にあります。

私ども、熊谷図書館は図書館協力業務を担っておりますが、かつての図書館未設置市町村支援のための移動図書館に代わり、現在は市町村立図書館や大学・類縁機関を結ぶ協力車ネットワークによる資料のやりとりが大切な業務となっています。

また、当館は、「社会科学と歴史・哲学」の専門館として、人文科学分野と社会科学・産業分野を担当し、海外資料、視聴覚資料にも力を入れています。

平成27年度には浦和図書館閉館に伴い、資料収集・整理の機能とともに、地域・行政資料とビジネス支援サービス等を引き継ぎました。

さらに、デジタル化の進展に伴い、100年先を見据えた県内自治体のデジタル行政資料の収集と公開や、国立国会図書館が運営するジャパンサーチへの参加による資料の公開を進めています。

時代の中で県民が県立図書館に寄せる期待や役割は日々刻々変化しますが、そうした期待に応えるべく、今後も県民に愛され、地域に根差した県立図書館づくりをしてまいりたいと考えております。

埼玉県立久喜図書館長 上松 寿明

埼玉県立図書館は、大正11年の創立から、今年で100周年を迎えます。皆様のこれまでの御愛顧に心より感謝申し上げます。

久喜図書館は、昭和55年に4番目の県立図書館として開設され、平成15年の資料再編を経て、「自然科学と芸術・文学」の専門館として、自然科学、技術、芸術、言語及び文学分野を担当し、併せて児童、障害者サービス用資料の充実も図ってまいりました。

サービスに関しては、健康・医療情報サービスをはじめ、障害者サービス、児童サービスの中心館として、広く県民の皆様の課題解決支援や、県内市町村立図書館の支援に努めています。

また、国立国会図書館のレファレンス協同データベース事業における埼玉県立図書館提供調査事例（熊谷図書館分を含む）のアクセス件数が、14年連続で全国1位となったことも、埼玉県立図書館が積み重ねてきた成果の一つであると考えます。

今後も、これまで職員が積み上げたサービスのノウハウやスキル、資料のストック、連携機関とのつながり等の資産をしっかりと継承しながら、常に利用者ファーストの視点に立ち、熊谷図書館とともに、これからの100年に向け、県民の皆様にとって真に役立つ図書館づくりに邁進してまいります。